

第4回

全国グライダークラブ サミット 2016 角田報告

公益社団法人 宮城県航空協会 齋藤 岳志

平成 28 年 11 月 26 日、角田に滑空界のリーダーが集いました。

事故の多発、滑空人口の減少、高齢化、若手後継者の不足、グライダー界が抱える様々な問題を解決に導くためにはクラブ単独での対応は難しく、組織としての対応が必要となります。クラブ間で連携し、情報共有、役割分担を行う事で問題解決と統括団体である滑空協会の機能強化を行う事を趣旨とし、SATA 日口様の呼びかけで、全国グライダークラブミーティングがスタートしました。第 1 回は大野滑空場、第 2 回は長野滑空場、第 3 回は板倉滑空場と半年ごとに開催され、第 4 回は名称を「全国グライダーサミット」と変えて角田で開催され、全国 11 団体から 17 名の参加がありました。

今回のテーマは、昨今の滑空機関連事故の多発を受け、「事故の連鎖を断ち切るためには」とし、2 日間にわたり議論が行われました。

DAY1 (11月26日) AGENDA

議題 1 : 「事故概要説明および Q&A 平成 28 年 5 月 5 日 JA21BB」

宮城県航空協会 齋藤 岳志

議題 2 : 「JSA 滑空安全会議を受けた各クラブの取り組みについて」

参加各代表者による発表

議題 3 : 「スピンに関するヒヤリハットについて」

公益社団法人 日本滑空協会理事 相島 正敏 様

安全対策の構築 DAY 2 に向けて

DAY 1 は、角田滑空場で発生した JA21BB 事故概要についての報告が行われた後、ウェーブによる高高度 XC 飛行の安全について、どのように技量判定を行うか？クラブとしてパイロット管理にどこまで踏み込むのか？等について意見が交わされました。結論を導くのは難しい問題ではありますが、シラバスを作り、ステップ バイ ステップで飛行範囲を広げていく事を一つの解決策としました。

その後、議題は大利根飛行場での JA50KM、妻沼滑空場での JA21WP の墜落事故を受け、低高度でのスピン防止対策へと移りました。

JSA 主催で開催された滑空安全会議を受け、各クラブの取り組みについての協議が行われました。これは、ウェーブでの安全管理に増して難しい問題で、JSA 相島理事からのヒヤリハット事例報告も含め、議論は白熱しました。

DAY1 の終了後は、宮城県航空協会のクラブメンバーも加わり、角田シンケンファクトリーにて懇親会が行われました。日中のヘビーな議題とは打って変わり、楽しいグライダー談義に花が咲きました。次回開催地はこの宴の中で決定する事が恒例となっていますが、次回開催地はさらに北上し、滝川となりました。

DAY2 AGENDA

議題4：「安全対策の策定」

報告

「各クラブからの事例報告」

「委員会報告」

安全委員会報告

公益社団法人 日本滑空協会 理事 篠原 治男 様

インストラクターマニュアル委員会報告

公益社団法人 日本滑空協会 理事 相島 正敏 様

DAY2は、DAY1での協議を受け、安全対策の策定を行い、最も重要なのは、スピンを空力的に正しく理解し、入らないための対応と入った場合の回復方法を正しく教える事が出来るインストラクターを育てる事であるとの結論に至りました。

まずは、指導者の知識、技量向上のため、各クラブのインストラクターが、現在、櫻井玲子様が実施している異常姿勢回復訓練を受講し、各クラブにインストラクションとして落とし込むことを推奨する事としました。

最後に各クラブからのインフォメーションおよび、クラブミーティングがもととなり発足した安全委員会およびインストラクターマニュアル委員会からの報告をもって閉会となりました。

ミーティング終了後、希望された方は、滑空場での体験飛行に臨みました。

内容の濃い2日間が終わりました。全国のクラブ代表が一堂に会し、歯に衣着せぬ議論と情報共有が出来るのは大変貴重で有意義な機会と感じました。

お集まりいただいた皆様、開催にご協力いただいた皆様ありがとうございました。

また、滝川でお会いできるのを楽しみにしております。

